

●足立区の概況

(1) 位置

足立区は、東京 23 区の北東部に位置しています。東は中川をはさんで葛飾区、西は隅田川をはさんで北区、荒川区、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に接しています。

東西は 11.10 km、南北は 8.79 km、北緯 35 度 44 分から 35 度 49 分、東経 139 度 44 分から 139 度 51 分に位置しています。



(2) 面積

区内の総面積は 53.20 k²で東京 23 区の約 9%にあたり、大田区、世田谷区について第 3 位の広さです。この広さは、旧東京市（15 区時代）の市域とほぼ同じで、面積は隣接の区、市との境界変更による変動を経て、現在に至っています。

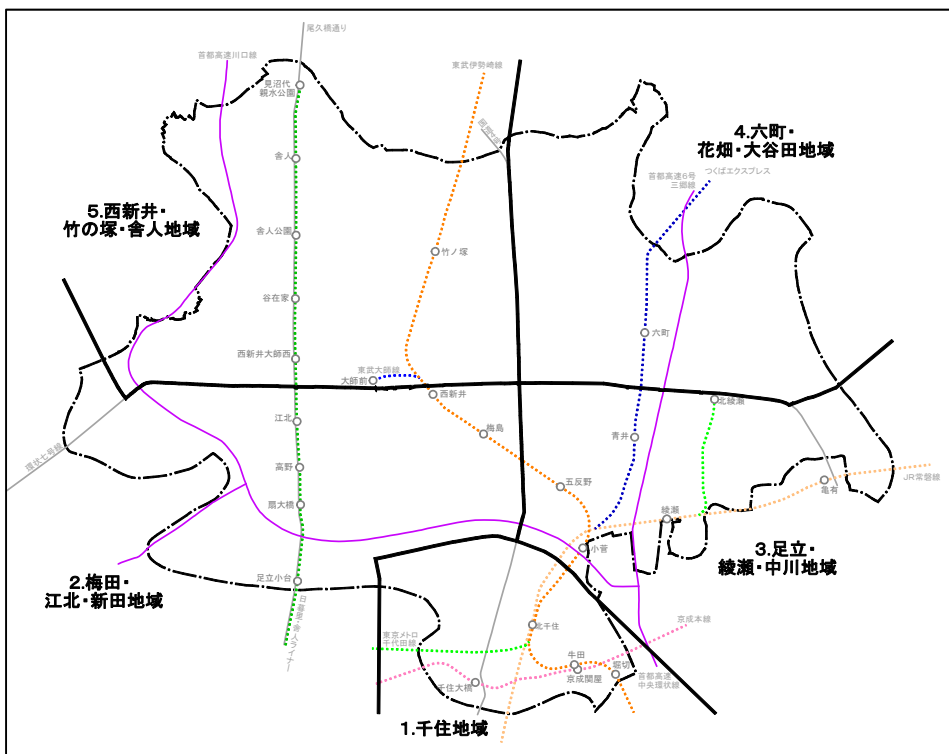
(3) 地域の区分

足立区には 269 の町丁目がありますが、地域が持つ特性を活かしたまちづくりを進める上での基礎的な範囲として区内を幹線道路、鉄道、河川等によって 5 地域に区分しています。

(4) 交通

区内には、JR 常磐線、つくばエクスプレス、東武伊勢崎線、京成本線、東京メトロ日比谷線、東京メトロ千代田線、日暮里・舎人ライナーの各鉄道が走っており、北千住駅、竹ノ塚駅、西新井駅など多くの駅があります。

また、国道 4 号や環状七号線、尾久橋通りなどの幹線道路のほか、首都高速中央環状線、川口線、6 号三郷線が通っています。



※区内の総面積は 53.25 k²を公表値としています。
 ※都市計画においては、都市計画決定の区域面積を 53.20 k²としていることから、本調査における区内の総面積は、53.20 k²として分析を行っています。

●足立区の概況

(5) 地勢

足立区は、その昔海辺に接していた低湿地帯の一部でした。この地域は、遠く連なる松戸・国府台の台地と、上野・飛鳥山を結ぶ台地との間に横たわっていた入江や湿原、また入り組んだ荒地であったと推定されています。

区内は全体的に平らで、人工的に築かれた荒川の堤防や公園内の丘以外に丘らしい高地はほとんどありません。北西部はやや高く、南東部に行くに従って緩やかに傾斜しながら下がっていることから、昔から足立区は農耕に適していました。

地勢上のもう一つの特色は、川が多いということです。東京を水害から守るために、明治44年から昭和5年まで長い歳月をかけて開かれた荒川（放水路）が、足立区を北西から南東へと流れ、区を二つに分断しているほか、四方を川で囲まれ、南に隅田川、西に荒川、新芝川、北に毛長川、そして東に中川、綾瀬川、堀（がけ）川が流れています。

(6) 人口

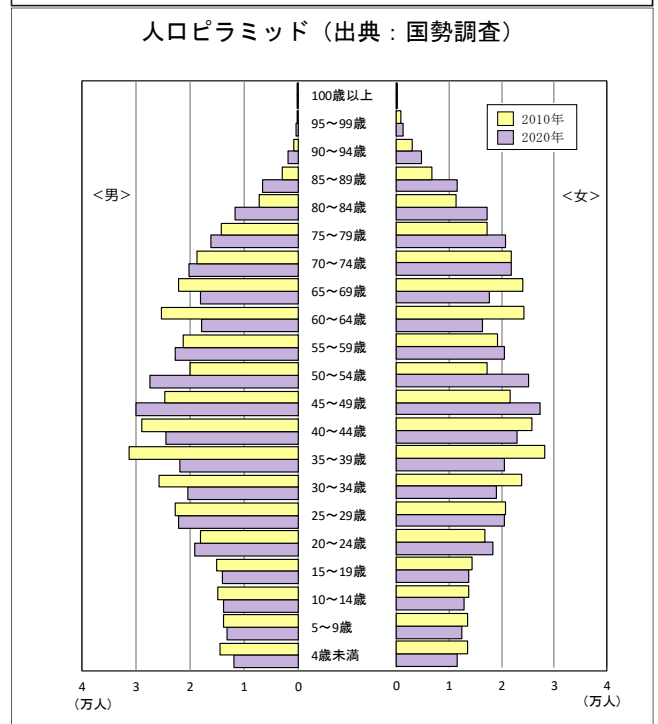
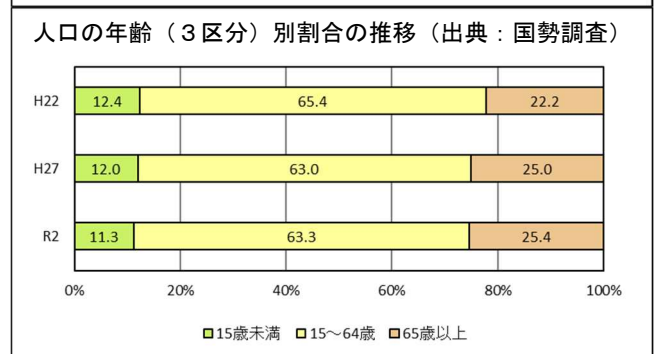
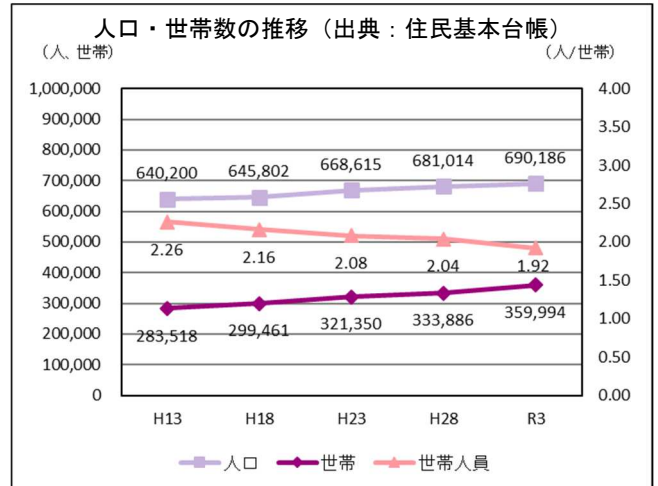
足立区の人口は、令和3年10月1日現在、690,186人となっています。人口は増加傾向が続いており、平成23年からの10年間で約22,000人増加しています。

世帯数は、令和3年現在、359,994世帯であり、増加傾向が続いています。一方、1世帯当たりの人口は減少傾向にあり、平成13年（2.26人/世帯）から令和3年（1.92人/世帯）の20年間で0.34人/世帯減少し、単身世帯、2人世帯が増加していることが伺えます。

足立区の人口の構成は、年齢（3区分）別にみると、「15歳未満」の割合が減少し、「15～64歳」、「65歳以上」の割合が増加しています。「65歳以上」の割合は、令和2年には25%を超え、

4人に1人以上が高齢者という状況になっています。

また、5歳階級別人口をみると、2010年に最も多かった年齢層は35～39歳でしたが、2020年では45～49歳が最も多くなっています。



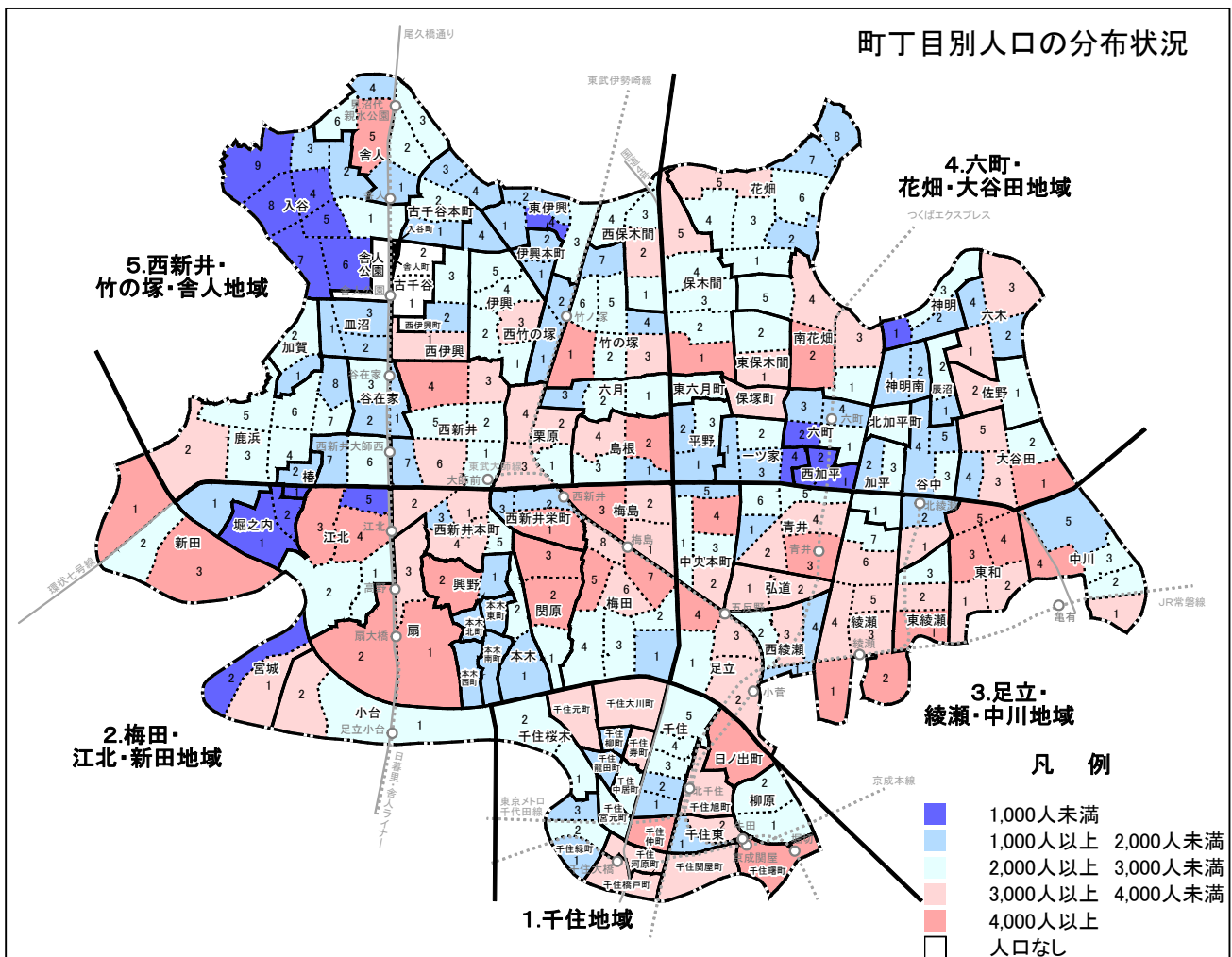
◆人口分布

足立区の人口分布を町丁目別にみると、最も人口が多い町丁目は、新田三丁目です。9,837人となっています。

この他にも、扇一丁目(7,097人)、西新井栄町一丁目(6,662人)をはじめ、33の町丁目で人口が4,000人以上となっています。

人口の分布は、環状七号線沿い及び以南の町丁目です。3,000人以上の分布が多くみられます。

平成28年から令和3年にかけて、人口が大きく増加した町丁目は、六町一丁目の1,242人が顕著です。一方で、人口が大きく減少した町丁目は、鹿浜五丁目551人、六町二丁目537人減少しました。これは土地区画整理事業や公営住宅の建替えによるものと考えられます。



●足立区の概況

◆高齢化率

足立区の高齢化率（65歳以上人口/全人口）を町丁目別にみると、最も高齢化率が高い町丁目は、花畑八丁目
で49.7%となっています。

この他にも、千住桜木二丁目をはじめ、54の町丁目で高齢化率が30%以上
となっています。高齢化率は、平成22年と令和2年を比較すると、区内全域
で上昇しています。

平成22年から令和2年の10年間で大
きく上昇した町丁目は、花畑八丁目、

舎人六丁目など10の町丁目で10～16%
上昇しました。これらの町丁目には、
大規模団地（P32を参照）が立地してい
ており、団地内の高齢化もひとつの要
因になっていると考えられます。

一方で西加平一丁目、西加平二丁目
では12%～18%減少しており、これは、
施行中の土地区画整理事業が要因と考
えられます。

